

プロジェクト報告書

団体名 NPO 法人 文化学習協同ネットワーク

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

若者自立支援のための食農ワーキングプロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

「社会的ひきこもり」と呼ばれる若者たちは、効率やスピードを要求される企業の前で働く意欲を失っています。「働きたい」という思いとは裏腹に、そこに順応できる自分をイメージすることができず、立ちすくんでいる状態が「社会的ひきこもり」です。若者たちには自分が働くことが意味のあることだと実感できる手触りのある労働体験が必要であると考え、学校でもなく会社でもない、その中間的な「就労へと繋がる学びの場」が必要であると考えます。若者たちはその体験の中で仕事に出会い、仲間に出会い、自分とも出会いなおすことによって、自己の進路を新たに形成していくことができます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

当団体に関わるニート・ひきこもり経験を持つ若者たちが「風のすみか農場」で堆肥づくりを通じた畑の土づくり、パンの原材料となる小麦や季節の野菜づくりに携わり、最後に自らが生産した小麦を使ったパンの製造・販売を「風のすみか」で行います。このような一連の生産から加工、販売の体験を通して若者たちが生産者・消費者、それから社会に出会うことを目的とします。また今回このプロジェクトでは、12月に収穫祭として収穫した小麦で若者たちがパンを作り、近隣農家の方々に振舞い若者と生産者が交流する場をつくりました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

生産、加工、販売という多種にわたる職業を体験することによって、自分自身の職種の適正などについての理解が深まりました。またすべてを体験することにより仕事の全体像がみえ、いま自分が向き合っている仕事はどういう過程でどのような意味をもっているのかを実感することができました。さらに収穫祭においては、プロジェクト参加者がホストとなり、当団体に関わる他スタッフや地域住民を呼びイベントづくりを行いました。彼らがホストとなり主体的につくりあげた収穫祭は、農家と都市住民の有機的な交流ができました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

当初計画していたプロジェクトにおいてはホイールローダーありきの構想であったので、プロジェクト内容を変更せざるを得ないことが幾つかありました。予定していた堆肥づくりは実行することができず外部から購入(予算外)したが、生産・加工・販売という一連の流れは予定通り行うことができました。収穫祭も当初予定していた人数より若干少なめだったが近隣住民の方も参加し、ユメシホウでつくったパンや農場で収穫した野菜を使用して芋煮などを振る舞うことができました。若者自身が自分たちで育てた小麦で作ったパンの説明を発表する機会などを設けるなどして、和気あいあいとした雰囲気での収穫祭を行うことができた。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし